

第 27 回 南九州市かわなべ青の俳句大会

審査評より

昨年度の優秀作品集に掲載した、審査員の審査評から抜粋してあります。

児童生徒への俳句指導の参考にしてください。

指導のポイント

1 季節に親しむ

夏だけでなく、「春夏秋冬」それぞれの季節を感じ、楽しみ、一年を通じて俳句に親しむ心をもってほしい。

2 自分で見て感じる

自分で見て感じたことを句にすることが重要です。また今回全く同じ句が出てきましたが、話し合っつくるのもやめましょう。

3 借用しない

他人の過去の入選句を借用して、下五だけを変えた句がありました。インターネットで検索したのですが、これは駄目です。

4 五七五を基本に

俳句は五七五でよむのが基本です。多くの方が五七五でよんでいました。短いのでどう表現しようかと考えます。できるだけ自分なりの表現を考えましょう。

5 感情を別の言葉で表現

心の感動を句にしなさいという指導のもと「おいしい」「うれしい」「かなしい」「最高だ」といった言葉で括った句が半分以上見受けました。今後、その気持ちを別の言葉で表現出来るようになれば、抜け出せた俳句になることでしょう。

6 無駄な言葉を省く

意味の重なる言葉の重複、言わなくてもいい言葉を使わないことで、平凡さから抜けられる。例えば、花火と夜空、花火と夏祭り、向日葵と夏空、蛍と闇と夏、氷と冷たさ、かき氷と夏など、同時に用いられた俳句が無駄のある俳句といえる。俳句は十七文字だから、無駄な言葉は省くことで、深みのある俳句が生まれると思う。

7 提出前に確認

季重なりと漢字の誤字の多いのが気になりました。提出前に確認作業をしましょう。

8 指導の行き過ぎに注意

指導は必要ではありますが、行き過ぎたものにならないように先生方は注意して貰いたいと思いました。